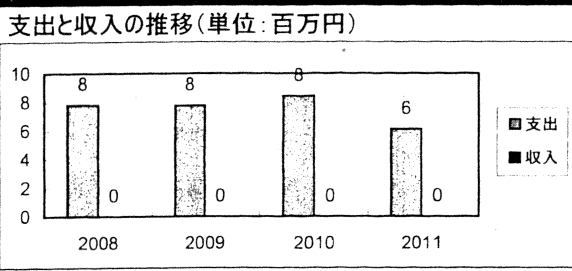


施設概要説明資料

1.対象施設			
名称	町田リス園		
所在地	町田市金井町733-1	土地	9388.01㎡
建物	階建	㎡	構造
			築年数
			22年
運営方法	<input type="checkbox"/> 町田市直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市の土地・建物等を団体に貸し、運営を団体が担う。)		
運営への市民参画	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <small>・運営法人のNPOでは、地域住民を理事として積極的に登用し、経営に参画している。 ・木材、野菜、ヒマワリの種を、市内外の団体や学校、および農家から、原材料や飼料としての提供をうけている。</small>		

2.施設の目的							
設立時の目的	<input type="checkbox"/> 子どもたちの情操教育の一環として、小動物と触れ合える機会を作ること。 <input type="checkbox"/> 障がい者の通所授産施設として、障がい者の社会参加や能力の育成の場とすること。 <input type="checkbox"/> 施設で働く障がい者の姿を通して、社会への福祉の啓発の場とすること。						
現在提供している主なサービス	<table border="1"> <tr> <th>対象顧客</th> <th>サービス内容と提供価値</th> </tr> <tr> <td>入園者</td> <td>動物と触れ合うことにより、楽しさや癒しを感じていただく。 障がい者が働くことにより、障がいへの理解を深めていただく。</td> </tr> <tr> <td>施設利用者(障がい者)</td> <td>「就労継続支援B型事業所」として、作業を通して基本的な生活習慣や社会性を身に付け、社会参加することによる喜びと生きがいを得る。</td> </tr> </table>	対象顧客	サービス内容と提供価値	入園者	動物と触れ合うことにより、楽しさや癒しを感じていただく。 障がい者が働くことにより、障がいへの理解を深めていただく。	施設利用者(障がい者)	「就労継続支援B型事業所」として、作業を通して基本的な生活習慣や社会性を身に付け、社会参加することによる喜びと生きがいを得る。
	対象顧客	サービス内容と提供価値					
入園者	動物と触れ合うことにより、楽しさや癒しを感じていただく。 障がい者が働くことにより、障がいへの理解を深めていただく。						
施設利用者(障がい者)	「就労継続支援B型事業所」として、作業を通して基本的な生活習慣や社会性を身に付け、社会参加することによる喜びと生きがいを得る。						
中期経営計画との関連	<input type="checkbox"/> 重点施策3-7 高齢者や障がい者の生活を支える <input type="checkbox"/> 重点施策2-4 農と緑と水のまちをつくる <input type="checkbox"/> 重点施策3-3 多様な体験ができる機会を充実する <input type="checkbox"/> 重点施策4-2 都市ブランドを高める						
関連法令・条例	なし						

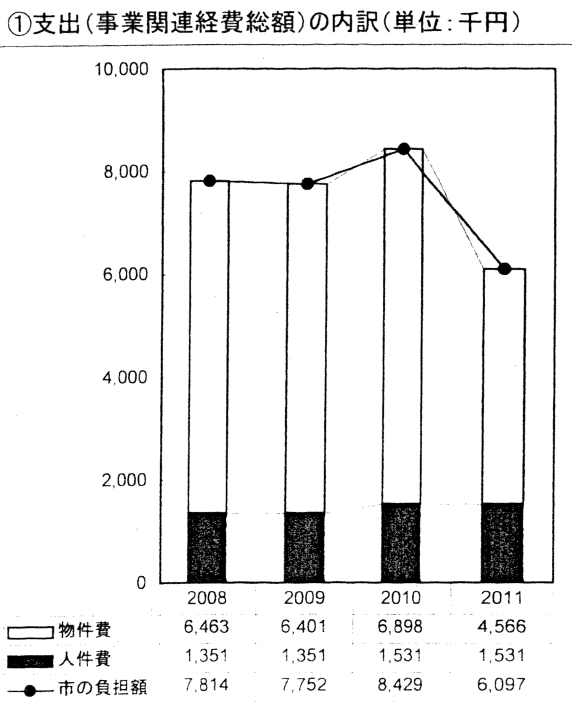
3.施設の運営・管理にかかる費用と収益



グラフの見方

①支出について
 人件費は、リス園事業に関わった所管課職員の稼働時間から算定。物件費は中事業としてのリス園事業についての総支出額(内容:施設修繕費、マクドナルド埋込み・登録費用、警備や清掃、樹木剪定などの維持管理委託料)

②収入について
 入園料は、市の歳入ではなく、運営法人の収入である。



担当 地域福祉部障がい福祉課長 吉田 公生 電話 724-2147

施設概要説明資料【補足資料】

1.対象施設

●施設について

<土地>面積は公簿面積で9388.01㎡(12筆分)。約65%(6108.01㎡)は園地であり、約35%(3280㎡)は緩衝緑地帯である。また約75%(7036.01㎡)は市有地(普通財産)であり、約25%(2352㎡)は2名の地域の方から土地を市が借り、これらを運営団体に貸し付けている。なお地権者1名から、市に買い取っていただきたい旨の要望が出ており、調整中である。

<建物>次の5棟を団体に貸し付けている…売店ゲート(S造一部RC造 178.12㎡)、便所(RC造48.44㎡、作業棟(木造167.13㎡)、放飼場入口(RC造 98.56㎡)、シェルター(S造、101.76㎡) すべて1988年築。

●運営について

リス園は、市の土地・建物を団体に貸し、運営を団体が担うという手法をとっている。維持管理は、光熱水費の負担や日常的な管理は団体がおこなっているが、概ね10万円以上の修繕や、警備、清掃といった有益費は市が支出している。このような状況は、一種の「協働」とも言えようが、社会情勢の変化とともに、協働のあり方や市として担うべき役割が変化している。事業の位置づけや、運営団体と市との役割分担を整理し、明確化する時期にきている。

2.施設の目的

「広く一般市民の子どもから高齢者を対象とした小動物園でリスやウサギ、モルモット等の小動物に直接触れ合える場所を提供し、子どもたちに対して動物教室や巣箱づくり教室を通して動物に対する啓発活動及び情操教育を行う。

また、障がい者に対して仕事ができる通所施設として広く門戸を開き、来園者や一般市民に対して障がい者がいきいきと働いていることへの啓発活動を行うこと」(運営団体である「NPO法人 町田リス園」の定款より)

●設立の経緯

<1980年代情勢>

障がい者が働く場の拡大が求められた

町田は団地が多く、子供達が動物と触れ合うことができない

<当時の市長のかねてからの想い>

「障がい者に動物好きな人の多いことから、動物と接する仕事を作れないか？」

「子供達が小動物と触れ合う中で、豊かな情操を育ててほしい！」

障がい者が働く小動物園構想

(市に検討委員会の設置)

・伊豆大島のリス村を参考に、飼育動物は「リス」が主体
・検討委員会には、障がい者をもつ親の会も参加

～主な作業内容～
・接客業務(入場券もぎり、エサ販売)
・各種作業(園内外清掃、エサ作り)

1988年:開園(開所)
親の会(任意団体)が運営する無認可の作業所

*2008年
運営団体が法人化(NPO)
*2011年
自立支援法内事業に移行(就労継続支援B型)

●中期経営計画との関連について

障がい者の生活を支えることについては、中期経営計画(3-7)で設定されている。リス園は障がいのある方の社会参加の場であり、その整備や運営の面で市として支援をしてきたところである。また直接的ではないが、同計画内の下記項目でも関連付けられる。

- ・リス園の緩衝緑地帯が付近の緑地と一体となって豊かな景観をなしている点(2-4)
- ・様々なイベント(リスの巣箱づくり教室、カブト虫捕りなど)を催し、子どもが多様な体験を提供している点(3-3)
- ・年間約10万人もの来園者が訪れるリス園は、町田を対外的にアピールできる点(4-2)

●運営団体の収支状況について(単位:千円)

【収入】

○法人事業について

収入合計 (H20=30,178 H21=36,274 H22=34,317) 以下主な内訳

- ・補助金 (H20=17,905 H21=22,832 H22=23,876)
- ・売店売上 (H20=11,900 H21=13,064 H22=10,428)

○授産事業について

収入合計 (H20=45,059 H21=54,396 H22=49,809) 以下主な内訳

- ・入園料 (H20=32,370 H21=39,504 H22=36,056)
- ・エサ売上 (H20=12,276 H21=14,757 H22=13,779)

【支出】

○法人事業について

支出合計 (H20=29,041 H21=35,812 H22=36,342) 以下主な内訳

- ・人件費 (H20=12,386 H21=17,336 H22=19,781) ⇒給料、手当、法定福利費
- ・物件費 (H20= 9,585 H21= 9,278 H22= 8,773) ⇒役務費、委託料、光熱水費、通所者交通費
- ・その他経費 (H20= 7,070 H21= 9,198 H22= 7,788) ⇒売店仕入

○授産事業について

支出合計 (H20=41,677 H21=46,572 H22=46,357) 以下主な内訳

- ・通所者賃金 (H20= 5,483 H21= 6,012 H22= 5,914)
- ・人件費 (H20=30,391 H21=33,830 H22=32,434) ⇒給料、手当、法定福利費、非常勤賃金
- ・物件費 (H20=5,803 H21= 6,730 H22= 8,009) ⇒役務費、飼料飼育費

●支出について

○緊急修繕費として、別の中事業ではあるが、障がい福祉課にて以下のとおり支出した。

2008年度=2,617千円 2009年度=399千円 2010年度=931千円

○当課のほか、営繕課分の予算として、以下のものがあつた。

2009年度=工事 533千円、修繕1,391千円

2010年度=工事3,899千円、修繕 399千円

○以上により、リス園に関して当市が支出した額を合算すると下記のとおりとなる。

2008年度=10,431千円 2009年度=10,075千円 2010年度=13,658千円

※2010年度に一時的に予算額が増加したのは、単年度事業(用地測量2,333千円)を実施したため。

担当

地域福祉部障がい福祉課長 吉田 公生

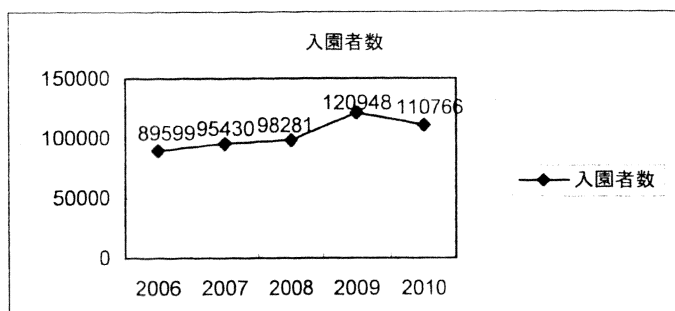
電話

724-2147

施設概要説明資料

4. 利用状況の推移

【E】施設の利用率(回数)(利用人数)



【F】付帯設備の利用率(回数)

付帯設備なし

利用者の特徴: 全入園者数に対して、大人は2/3、子どもは1/3であることから、子どもづれの家族での入園が多い。また団体での入園が、年ごとに増加している。月ごとでは、連休が続く5月や9月の入園者数が多い。

5. 実施した改善(2008年度から2010年度までの3年間を対象期間とする)

改善ニーズと把握方法	施設職員が入園者から不定期に寄せられる要望を、施設として把握し、理事会、市所管課とともに改善策を検討する。				
改善の内容	施設面		運営面		
	2008年度: 動物広場内の手洗い場の改修 2010年度: 放し飼い広場内の整備		○運営団体がNPO法人を取得。 ○特に子ども向けのイベントを多く開催。 ○メディアへの露出(テレビ、情報誌)		
活動の成果	成果指標	2008年	2009年	2010年	2011年目標
	入園者数(年度トータル)	98,281	120,948	110,766	110,000
	施設利用者数(年度始め時点)	14	17	18	18

6. 今後の方向性

2016年に目指す姿	園内施設の整備を、市と法人がおこない、入園者が楽しめると同時に、利用者(障がい者)が働きやすい環境を整える。	
予測根拠	利用者の動向	<input type="radio"/> 増加する <input type="radio"/> 減少する <input checked="" type="radio"/> 変わらない 入園者のうち、ファミリー層が多いのは、開園当初からであり、今後もこのことに変化はないものと予測する。
	代替手段	<input type="radio"/> 代替施設・サービスあり <input checked="" type="radio"/> 代替施設・サービスなし 市内の福祉施設で、動物と接する仕事ができる場所は他にはない。
	市民ニーズの動向	<input type="radio"/> 増加する <input type="radio"/> 減少する <input checked="" type="radio"/> 変わらない 不況により、特にファミリー層にとっては、遠方の観光地よりも、経済的・時間的な観点から近場の観光地に目が向いており、このような状況に変化は当面ないと予測する。
課題	○園内施設(動物展示スペースや作業棟)が老朽化、陳腐化、狭隘化している。 ○民有地部分について、市への買い取り要望が地権者からあり、取得財源を調整している。 ○開園以来、市事業として位置付けているが、社会情勢の変化とともに市が担うべき役割も変化しており、市として事業の位置づけや役割について説明しづらい部分がある。	
改善・解決の方法	○整備について… 作業棟や動物展示スペースを、運営団体が国庫補助とそれに連動した市補助を得ることにより整備。また買い取り要望がでている民有地については、市が財源(国庫補助など)を確保することにより、取得する。 ○運営について… 施設整備にあたっては、現状の市における事業の位置づけや、運営団体と市との役割分担を整理、再構築し、明確化する。	

7. 他自治体比較

自治体・団体	相模原市麻溝公園のふれあい動物園	こどもの国のこども動物園		
比較指標	入園者数	約54万人	約77.9万人	
		※10年度実績	※10年度実績	
比較コメント	動物と触れ合える、近隣の公園ということで、上記の施設があげられる。ただし、園全体としての入園者数であり、動物エリアにいらっしゃった方の数値ではないことから、一概には比較できない。			
担当	地域福祉部障がい福祉課長	吉田 公生	電話	724-2147

施設概要説明資料【補足資料】

4. 利用状況の推移

【入園者内訳】

大人：08年度＝66,300人 09年度＝82,882人 10年度＝75,016人
 子ども：08年度＝31,981人 09年度＝38,066人 10年度＝35,750人

団体客について

大人：08年度＝1,297人 09年度＝2,380人 10年度＝2,528人
 子ども：08年度＝2,547人 09年度＝3,937人 10年度＝4,196人

月ごとでは、連休が続く、5月や9月の入園者数が多い。

5. 実施した改善(2008年度から2010年度までの3年間を対象期間とする)

○子ども向けイベントの代表的なものとして、「巣箱作り教室」がある。園内外で発生した不要となった木材を原材料に、施設職員の指導のもと、親子で工作し、リスの巣箱を作るというものである。年に4回ほど実施。
 ○前述した団体客の増加した要因として、学校や幼稚園へのプロモートの結果、遠足で訪れる団体が増えている。また2009年度以降、新聞販売の販促品として新聞販売店による一括購入が発生したことによります。
 ○2011年度目標について…今回の災害による、「自粛ムード」や「計画停電」などが、観光面にどのような影響を及ぼすかが不透明である。一方で、市民にとっては、遠方よりも、近場の観光地に目が向くものと思われる。このようなことから、2010年度と同等の入園者数を目標とする。
 ※「施設利用者」とは、リス園で働く障がいのある方のことをいう。「雇用契約」ではなく、「利用契約」により働いていることから、「施設利用者」とする。

6. 今後の方向性

<現状>		<課題>
①民有地部分を市に買い取っていただきたい旨の要望が地権者からある。	⇒	①財政が厳しいこともあり、買い取りについての財源を、調整する必要がある。
②施設に隣接する鎌倉街道の拡幅が予定されている。	⇒	②拡幅により、線形によっては、用地の一部が減ることが予想される。
③施設で働きたい障がい者が増えてきている。(現状定員20名に対して18名)	⇒	③施設で働きたい障がい者を法人としても受け入れたいが、作業棟が狭い状況にある。
④展示スペースが陳腐化、老朽化している。	⇒	④入園者に向けて動物の展示の方法を工夫する必要がある。

<改善、解決の方法>

①取得財源は、公園用地、緑地用地の観点から国庫補助を得る方向で調整している。
 ②拡幅によって用地が減ることに対応するため、建物や展示スペースの配置を見直す。
 再配置(リニューアル)にあたっては、④動物の展示方法の改善にも対応した計画とする。再配置についての構想を昨年度から運営団体において練っているが、拡幅線形が決定された段階で、市と運営団体とで協議を行い、構想を本格化させた整備計画を策定する。
 ③障がい者の通所施設の創設に当たっては、国庫補助とそれに連動した市の補助制度があり、団体の自己財源とあわせて、整備していく。

7. 他自治体比較

施設内には、動物園がある近隣市の施設として「麻溝公園全体」「こどもの国全体」があげられる。比較指標となるべき入園者数として、園全体の総入園者数は表のとおりとなっているが、動物園単体としての入園者数は把握できなかった。

また、「横浜ズーラシア」や「多摩動物公園」とは、規模の点でリス園とは比較しづらい状況にある。

担当 地域福祉部障がい福祉課長 吉田 公生

電話 724-2147